

2022(令和4)年度

第1回 進路説明会資料



令和4年7月9日

練馬区立大泉北中学校 第3学年

【目次】

はじめに 「なりたい自分」へ一歩近づけるための進路選択を

- | | | |
|----|------------------|---------|
| 1. | 進路決定までの日程 | p.1～2 |
| 2. | 卒業後の進路（就職までの道のり） | p.3 |
| 3. | 就職について | p.4 |
| 4. | 上級学校への進学 | p.5～9 |
| 5. | 学校選びの基本 | p.10 |
| 6. | 奨学金制度について | p.10 |
| 7. | その他の変更点について | p.11 |
| 8. | 保護者の皆様へ | p.11～12 |
| | 付録資料1～3 | p.13～15 |

「なりたい自分」へ一歩近づけるための進路選択を

校長 井上 春好

いくつもある選択肢の中から、自分の進む道や進路先を決定することは、簡単なことではありません。

《進路を考える上で大切なこと》

- 1 自分を知ること（自分の性格、能力・適性、興味・関心、夢・希望）
- 2 相手を知ること（志望先の教育方針・内容・雰囲気、就職・進路先情報）
- 3 生き方考えること（将来の方向性、仕事、生活）

上記の3つを総合的に判断して、《進路選択の判断基準》で最も大切なことは、

「その進路選択をすることにより、将来希望する“なりたい自分”
へ一歩でも近づけるかどうか」です。

仕事への興味、将来の方向性、さらには人生全体を見通して、これからどうしていきたいのかを選択基準として考え始めるのが中学3年生です。

まだ、「将来のことを全く考えていない」人は、今できる範囲で、将来の“なりたい自分”を考えてください。将来のことを考え、希望の進路を決めることができる人は、より明確な目的意識をもって努力をすることができます。

これからの人生では、努力・選択・判断をする節目が何度も訪れます。必ずしもすべて自分の希望どおりにはいきませんが、努力や挑戦をせずして成功はありません。また、努力を積み重ねた経験は必ず先にいきていきます。ぜひ、自分の目標や夢を達成できるように努力を続けることができる人になってください。

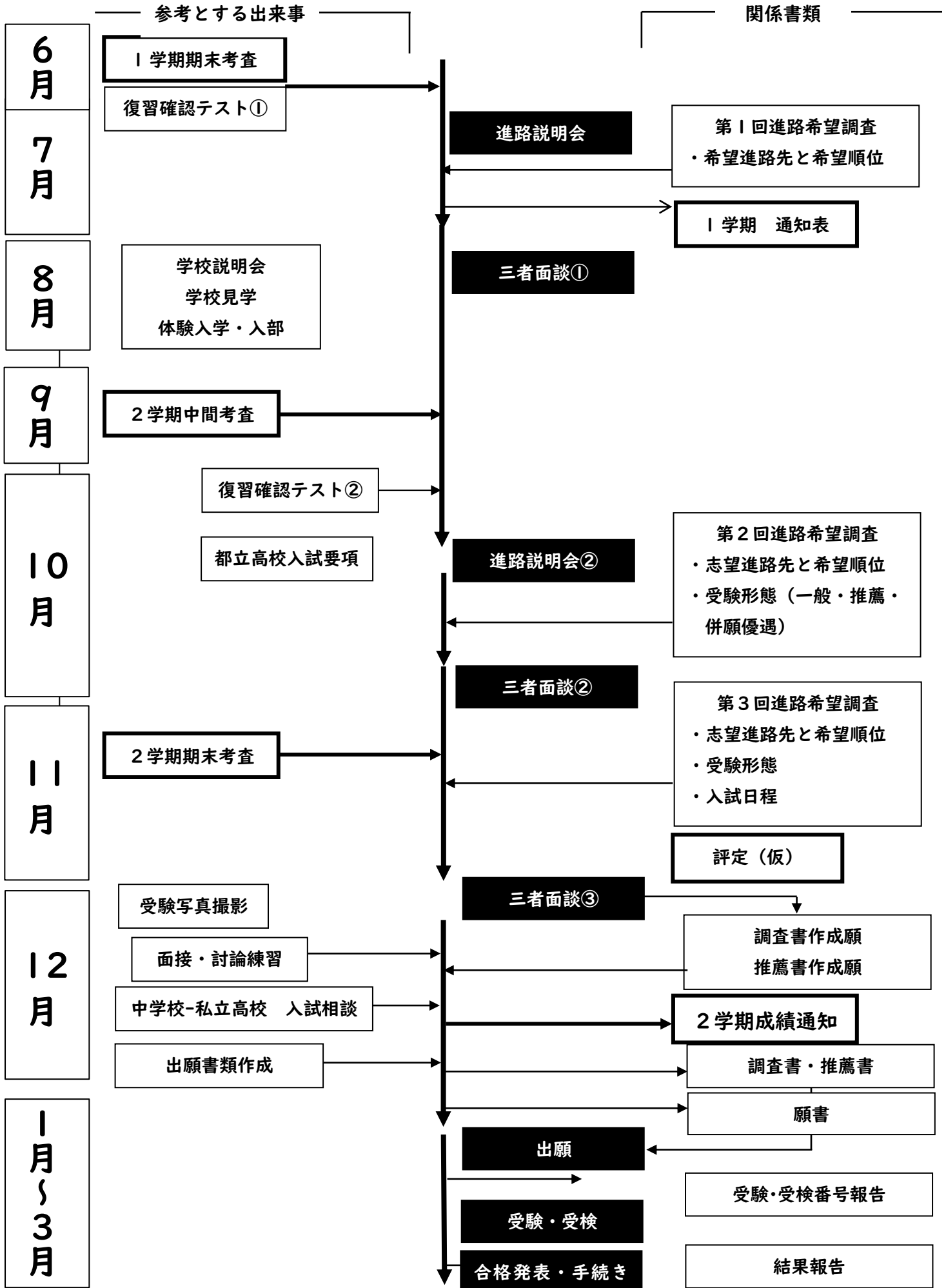
また、自分が進む道を決めるのは自分自身ですが、家族や周りの人からの助言を素直に聞き、相談することはとても大切なことです。自分では、気がつかなかった新たな見方や新たな自分、新たな可能性を見つけることもあります。

これから進路決定までの時期は、不安や心配なことがたくさんあると思います。保護者の方や家族、学校の先生、周りの人たちが、できる限り、みなさんを支えます。

令和5年3月、一人一人が、自分自身の夢や希望をもって、大泉北中学校を巣立っていけるように全員で頑張っていきましょう。



1. 進路決定までの日程



2022(令和4)年度入試 日程

月	日 程
6	◎1学期期末考査(22日~24日) ◎復習確認テスト①(27日)
7	■第1回進路説明会(9日) ◇進路希望調査①(7日配布 15日締切) ☆三者面談①(21日~27日)
9	◎2学期中間考査(15・16日)
10	◎復習確認テスト②(6日) ■第2回進路説明会(8日予定) ◇進路希望調査②(8日配布 14日締切) ☆三者面談②(28日~11月2日)
11	◎2学期期末考査(14・15・16日) ◇進路希望調査③(15日配布 22日締切)
12	・受験写真撮影(1日) ☆三者面談③(2日~8日) ◇調査書作成願(8日~16日) ・中学-私立高校間での入試相談(15日) ※ここまでに私立高校は決定する ・面接・集団討論練習開始 (推薦・併願優遇等) ・就職応募書類送付
1	▲私立推薦選拔出願(14日頃~)・入試・合格発表(21日頃~) △都立推薦選拔出願(12日~18日)・入試(26日・27日) △都立産業技術高専推薦選拔出願(12日~18日)・入試(27日) ▲私立一般出願(25日頃~)
2	▲私立一般入試埼玉県他(1日~) △都立推薦選抜合格発表(2日) △都立産業技術高専推薦発表(2日) △都立一次・前期出願(2月1日~2月7日)・入試(21日) △都立産業技術高専一次出願(2月1日~2月7日)・入試(15日)・発表(18日) ▲私立一般入試(10日頃~) ◎学年末考査(24・27・~28日)
3	△都立一次・前期合格発表(1日) △都立二次・後期出願(6日)・入試(9日)・発表(15日) ・卒業式(17日) △定時制二次出願(22日)・入試(27日)・発表(28日)

<記号の説明>

◎中学校での試験

△出願や発表

■説明会

▲入試

◇進路希望調査

☆三者面談

2. 卒業後の進路（就職までの道のり）

いろいろな進路

全日制高等学校…朝から午後までの日中に授業があり、3年間で卒業する最も一般的な高校です。

定時制高等学校…夜間、その他定められた時間帯に授業が行われます。4部制(昼間3部と夜間)等の学校もあります。卒業後の資格は全日制と同じですが年限は4年です。しかし、週時間の改正により3年間で卒業できる高校もできました。

通信制高等学校…通常は学校に登校せずレポートを提出して添削指導を受け、定められた日(月2日程度)に登校して面接指導(スクーリング)を受けます。卒業には所定の単位を取得する必要があります。

学年制高等学校…学年の区分があり、各学年で学習する教科・科目が定められて、学習成果により単位が与えられ進級していくという一般的な学校です。単位が不足すると留年となります。

単位制高等学校…学年の区分がなく、3年間(または4年間)の中で必修(必履修)科目の他に、自分に適した教科・科目を選択し、卒業に必要な単位以上取得すると卒業できます。時間割を自分でつくるので自己管理能力やしっかりした目的意識が求められます。

高等専門学校…5年制で、高度な専門技術者を育成するための教育を行います。卒業後、更に2年間の高度な技術教育を行います。専攻科を修了すると独立行政法人大学評価・学位授与機構の審査を経て、学士の学位を得ることができます。大学への編入資格も取得できます。

技術専門学校…1年間で職業実務を習得します。

企業内訓練校…会社内で専門技術教育を行います。修業年限は2~3年で、その間給与も支給されます。通信制高校と連携し、高卒の資格が取得できる学校もあります。

高等専修学校…専修学校は、美容・調理・服飾などの技能・資格を取得するための学校で、3つの課程があります。中卒者を対象とする高等専修学校の修業年限は学科で異なります。(1~5年、概ね3年)
修業年限3年以上の高等専修学校には、「大学入学資格付与指定校」や、通信制や定時制の学校と技能提携して高卒の資格が取得できる「技能教育連携校」が増えています。

3つの課程 ①高等課程：中卒者対象「高等専修学校」
②専門課程：高卒者対象「専門学校」
③一般課程：①②以外の教育を行う。

サポート校…同時に在籍する通信制高校を3年間で卒業できるよう学習をサポートする学校です。

高卒認定(高認)予備校…大学受験の資格を取得するための学校です。

文部科学省管轄外の学校(海員学校など)や公的教育機関(競馬学校など)

在外教育校…海外にある日本の高校で、日本の高校を卒業したのと同様の扱いとなります。現地の大学への進学も可能です。

海外の高校への留学

会社(就職)…職業安定所を通して入社手続きをします。

自営業(家業)…家業を手伝いながら、技術・経営などを習得します。

その他…家事手伝いなどがあります。

*家業を継いだり、就職する場合、定時制高校や通信制高校で働きながら学ぶことも可能です。

※ 高等学校のさまざまな学科や課程については、この冊子の付録資料Ⅰや別冊「東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」もあわせてご覧ください。

3. 就職について

- ◇ 大泉北中学校では、ハローワーク池袋を通して就職に関する指導を行っています。
- ◇ 12月に、就職相談表を提出し、1月10日以降、都内一斉に選考が始まります。試験は面接と身体検査というところが一般的ですが、簡単な筆記試験のあるところもあります。
- ◇ 発表は本人あての通知が来ます。また、ハローワークを通して中学校にも通知があります。
- ◇ 中学校を卒業して、すぐに社会に出るわけですから、職種、業種などについて、しっかりとした方向性を持ち、自分の長所や適性もよく考えることが必要です。保護者と十分に話し合うことも大切です。
- ◇ 企業内学校（日野工業高等学園など）を受験する場合は「就職」になります。

(1) 就職先決定まで

- ① 自分の長所や適性をよく考えに入れた上で、希望する業種、職種、就きたい仕事を決める。
- ② 学校に備えてある事業所に関する資料を読む。資料は、会社案内や、ハローワークから送られてくる求人情報などです。
- ③ その事業所を訪問し、見学させてもらう。
- ④ その事業所で働いている先輩から、実際に話を聞く。
- ⑤ 就職担当の先生に意見を聞く。また、保護者、担任とで三者面談をする。
- ⑥ 就職先を決定し、選考を受ける。

(2) 就職先決定の際、調べるポイント・参考にするポイント

<input type="radio"/> 募集している職種名・人数・仕事の内容
<input type="radio"/> 事業所の名称・所在地・電話番号
<input type="radio"/> 事業所の所属する産業名・生産、営業品目
<input type="radio"/> 通勤に利用する交通機関と所要時間
<input type="radio"/> 事業所の規模や組織、従業員数、男女比など
<input type="radio"/> 選考方法
<input type="radio"/> 就業時間・休憩時間・休日・休暇・作業着などの支給・残業の有無など
<input type="radio"/> 賃金・諸手当・昇給の状況など
<input type="radio"/> 通勤か、住み込み・宿舍設備などの状況
<input type="radio"/> 福利厚生に関する施設、設備、社会保険への加入状況
<input type="radio"/> 定時制高校への通学状況
<input type="radio"/> 事業所内職業訓練や、他の研修制度の有無
<input type="radio"/> 職場内の雰囲気など

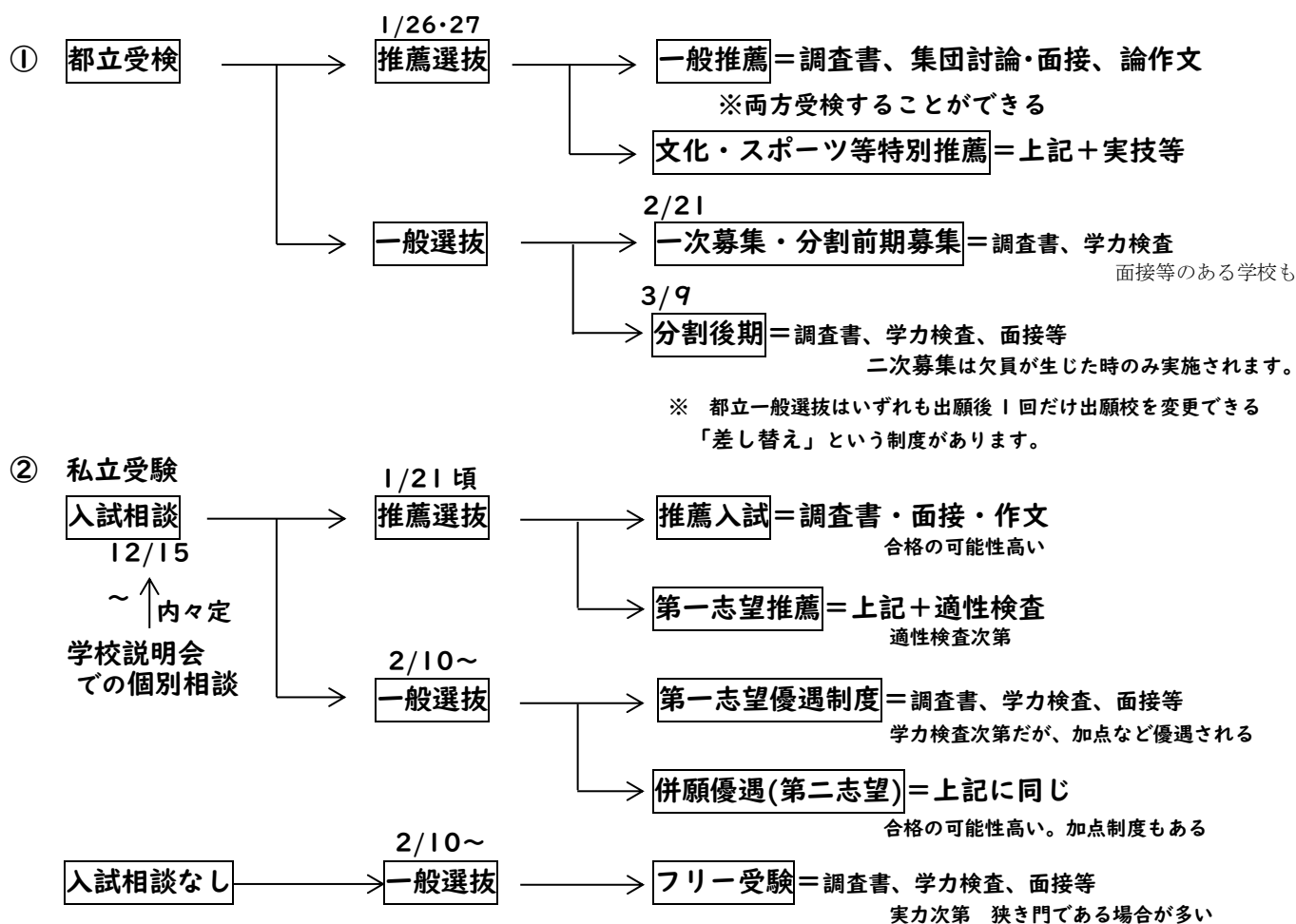
4. 上級学校への進学 — 高等学校への進学を中心に —

p.3やp.15にあるように、上級学校は多くの種類がありますが、ほとんどの人は「高等学校」を進路先として考えているでしょう。そこで、ここでは高等学校への進学に絞って説明します。

ごくおおざっぱに言って、高等学校は都立と私立に分けられます。また、進級のしくみで学年制や単位制、コース制に、さらに授業の履修のしかたで全日制と定時制、昼間定時制、通信制に分かれます。そのうえ、学校ごとに普通科、商業科、英語科などなど、さまざまな課程があります。この冊子の付録Ⅰや別冊の「入学を希望する皆さんへ」を参考にしてください。

高校が入学者を決めるために行う選抜の方法で推薦選抜(試験)と一般選抜(試験)に分けられます。都立は「受検」と書き、私立は「受験」と書きますが、読み方はどちらも「じゅけん」です。

A. 受検(験)の種類



B. 推薦選抜と併願優遇

推薦選抜とは、生活面、学習面がともに優秀であり、その学校を志望する動機や目的がはっきりしている生徒を中学校の校長先生が人物を保証して推薦する制度です。次のような特徴があります。

*基本的に学科試験がなく、面接や作文、調査書などで合否が決まります。ただし、私立高校の中には、「適性検査」

という名前で、基礎的な学力の有無をみるテストを実施する学校もあります。

*スポーツ、芸術など、専門性の高い分野の高校では、実技試験もあります。

*合格したら必ず進学することが条件です。

(1) 都立高校の推薦選抜

現在では、

- 一般推薦
- 文化・スポーツ等特別推薦

の2種類の推薦選抜があります。どちらかまたは両方を受検することができます。調査書、集団討論、個人面接、小論文や作文、特別推薦の場合はさらに実技試験などすべての検査結果を総合した成績で合否が決められますが、25年度より調査書点(内申点)を総合点の50%を上限とする制度変更が行われ、集団討論・個人面接・小論文などの比重が大きくなっており、内申点が高いからと安心することはできなくなっています。いずれにせよ、非常に高いレベルでの合格となります。なお、現在は推薦選抜で合格させる人数の枠(定員)を全体の20%~30%以内にする高校がほとんどです。また特別推薦は「英検準2級以上」、「都吹奏楽コンクール銅賞以上」、「都大会ベスト16以上」などの推薦の基準を事前に発表する高校もあります。(今年度は集団討論を実施せず、特別推薦の基準に大会の実績や、資格・検定試験等の成績に関わる内容を含めないことになりました。)

(応募資格の例)

- ① 当該高校への入学を第一志望としており、合格したら必ず進学する者。
- ② 学業面、人物面で優れており、当該高校の教育方針や「本校の期待する生徒の姿」をよく理解している者。
- ③ 在学する中学校の校長が推薦する者。(本校の推薦基準を満たしている生徒)

(2) 私立高校の推薦選抜(この形態がない私立高校もあります)

推薦選抜に出願できる「基準」があります。この基準以下だと、その高校の推薦選抜には出願できません。この基準には二種類あり、基準を満たしていればほぼ合格できるものと、基準はあくまで出願資格であり、合格は保証されないものがあります。

(高校側が示す基準の例) - あくまで例! -

- ① 学業面、人物面で優れており、当該高校の教育方針をよく理解している者。
- ② 当該高等学校への入学を強く希望しており、合格したら必ず進学する者。
- ③ 5科内申合計が16以上である者。
- ④ 3年次の欠席と遅刻と早退の合計日数が5日以内である者。
- ⑤ 学校説明会、体験入学、個別相談等に2回以上参加していること。
- ⑥ 在学する中学校の校長が人物面について責任を持って推薦する者。

※他に埼玉の私立校に見られる「自己推薦」はこの限りではありません。

(3) 併願優遇入試(私立高校一般選抜の一形態です。制度がない高校もあります)

私立高校入試にしかありません。「第一志望の高校が不合格の場合は、必ずこちらの高校に入学します」という前提のもとに受験するタイプの入試です。「第一志望の高校」とは、「都立高校」をさすことがほとんどですが、「私立高校でも可」という高校もあります。

一般入試(フリー受験)として受験するより、合格しやすくなっていますが、推薦選抜と同じように、出願ができる「基準」があります。基準に足りない場合は、p.8の一般選抜になります。

「手続き締め切り日」は、「都立高校合格発表の日、またはその翌日」が一般的です。

(高校側が示す基準の例) - あくまで例! -

- ① 学業面、人物面で優れており、当該高校の教育方針をよく理解している者。
- ② 第1志望の高等学校(多くが都立高校を想定、最近では私立併願を認める高校が増えた。)が不合格となった場合、必ず当該高校に進学する者。
- ③ 5科内申合計が21以上である者。
- ④ 3年次の欠席と遅刻と早退の合計日数が5日以内である者。
- ⑤ 学校説明会、体験入学、個別相談等に2回以上参加していること。
- ⑥ 中学校の校長が人物面について責任を持って推薦する者。

《本校の推薦基準》

これまで見てきたように、推薦入試とは、都立私立を含め、中学校が人物を保証して受検(験)する入試を指し、生活面、学習面がともに優秀であり、その学校を志望する動機や目的がはっきりしている生徒を中学校の校長先生が人物を保証して推薦する制度です。

推薦入試受験希望者の条件

- ◎ その学校への進学を真剣に希望し、合格したら必ず進学する意志を強く持っている。
- ◎ 各学校の学力・人物等の推薦条件をクリアしている。
- ◎ 推薦されるにふさわしい人物である。
 1. 大泉北中の教育目標である、「自ら学ぶ人間」「思いやりのある人間」「明るく健康な人間」を、日々の生活において実践しようとしている。
 2. 大泉北中の生徒として、決まりを守っている。
 - ・生活態度がしっかりとできている。
 - ・服装・頭髪等の決まりが守れている。
 - ・委員会、班、係の仕事にしっかり取り組んでいる。など
 3. 授業に真剣に取り組んでいる。
 - ・まじめな学習態度である。
 - ・提出物や宿題がしっかり出来ている。
 - ・チャイム着席が守られている。など
 4. 部活動やボランティア活動などを一生懸命にやっていて、一定以上の成績(実績)を残している場合、そういった活動などによる推薦ということもある。
 5. 社会一般の法律やルールを守っている。

以上の項目に照らし合わせ、3学年から全職員に提案があり、職員会議での了承を経て、最終的には校長先生が推薦での受検(験)を認めます。

C. 一般選抜

都立、私立ともに学科試験の成績と、調査書で合否が決まることが基本になる入試制度です。以下のような特徴とタイプがあります。

- * 学科試験と、調査書などの総合点で合否を決めますが、多くの私立高校が、一般選抜にも面接試験を導入しています。都立高校でも面接検査を実施するところがあります。
- * 学科試験の科目は、私立高校は3教科、都立高校は5教科が基本ですが、学校ごとに異なります。
- * 私立高校の場合、試験日が異なれば基本的には何校でも受験できますが、例外もあります。
- * 私立高校を一般選抜で受験する場合、合格後の「入学手続き締め切り日」が重要なポイントになります。簡単に言えば、入学金等の振り込みの締め切り日です。都立高校が第一志望の場合、都立の合格発表の後まで振り込みを待ってもらえるのが理想ですが、私立高校によっては、特別な手続きが必要な高校や、一切待ってくれない高校など、いろいろです。かなりの金額になるので、最初に確認しましょう。P.7に述べた併願優遇受験の場合は基本的には都立発表まで待ってくれます。

一般選抜には、以下の入試タイプがあります。

(1) 併願優遇入試（この形態がない私立高等学校もあります） p.6 参照

(2) 一般入試（フリー受験）

優遇制度がない、または基準に届かない私立高校を受験する場合、いわゆる「フリー受験」と呼ばれている入試タイプです。また、都立高校の一般選抜は、すべて一般入試です。

「手続き締め切り日」は、私立高校の場合、「都立高校合格発表の日、またはその翌日」というところが多いです。都立高校の場合は、発表当日と翌日正午までです。

(3) 第一志望（優遇）入試（この形態がない私立高校もあります）

私立高校入試にしかありません。推薦選抜と同じように、出願ができる「基準」があります。「推薦選抜（合格がほぼ確実）に出願する基準には足りないが、どうしても入学したい」という生徒を主に対象にしたものです。一般選抜ですから学科試験はありますが、他の一般入試の生徒よりも合格しやすくなっています。（加点など）ただし、合格を保障するものではありません。

「第一志望」として合格したのですから、「手続き締め切り日」は、合格即日か翌日です。

D. 合否のきまりかた 別冊「入学を希望する皆さんへ」(p. ~ 参照)

内申点

中学校から受検(験)する高校へ提出する「調査書」に書かれた評定点（通知表の5・4・3・2・1のこと）のことです。評定点を単純に合計した「素内申」と、入試当日に試験のない教科（音楽や家庭科など）の評定を2倍して合計するなど教科によって「重み付け」をした上で合計する「換算内申」の2種類があります。3年生の4月から12月末日までの成績を元に算出されるものです。

1. 素内申

通知表の5・4・3・2・1を単純に合計した数値。都立や私立高校の推薦入試、私立の併願優遇の時などに使われます。内申といたら、普通「素内申」のことをいいます。

※ 「3科内申」→国語・数学・英語の3科の5段階評定の合計

「5科内申」→国語・数学・英語・社会・理科の5科の5段階評定の合計

「9科内申」→国語・数学・英語・社会・理科・音楽・美術・保健体育・技術家庭の9科の5段階評定の合計

《素内申点の使われ方》

① 私立の推薦入試を受験することができるかどうか、併願優遇制度を利用できるかどうかの基準となる。

○ ある私立高校の例

・ 推薦入試受験資格

9教科内申が28以上。ただし、全教科に「1」がないこと。英検3級は+1。

・ 併願優遇利用資格

9教科内申が30以上。ただし、全教科に「1」がないこと。英検3級は+1。

② 都立推薦試験の得点となる。

たとえば、保谷高校の推薦試験は調査書点500点、作文点350点、個人面接150点の合計1000点満点での上位者が合格します。単純に調査書点の500点が評定合計だけで決まるとするならば、素内申点の最高点は45点（9教科で5）ですから、

$$500 \text{ 点} \times \text{あなたの素内申点} / 45 = \text{調査書点(小数点以下切り捨て)}$$

ということになります。

これに作文点、個人面接点が合計されて合否が決定されます。

2. 換算内申

都立高校の一般受検の時に使われる数値 以下は一般的な例

※5科(国語・数学・英語・社会・理科)受検の場合は、5科はそのまま合計

残りの4科(音楽・美術・保健体育・技術家庭)は、合計後×2倍

〈具体例〉

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭
3	4	3	3	4	3	3	4	3

素内申 (3 + 4 + 3 + 3 + 4 + 3 + 3 + 4 + 3) = 30
満点は45点です

換算内申

5科 国語・数学・英語・社会・理科の合計

$$(3 + 4 + 3 + 3 + 4) = 17$$

4科 音楽・美術・体育・技術家庭の合計×2

$$(3 + 3 + 4 + 3) \times 2 = 13 \times 2 = 26$$

つまり、換算内申は $17 + 26 = \underline{43}$ となる

満点は65点です

《換算内申点の使われ方》 都立の合格の決まり方

① 都立第一次募集・分割前期募集（いわゆる一般入試）の得点となる。

・ 都立一般入試は多くの学校が学力検査点と調査書点の合計1000点満点で実施されます。

・ 学力検査点と調査書点の比率は700：300が基本です（まれに専門科の学科で600：400となる高校もあります）。

・ 換算内申点（満点65点）は300点に換算します。

・ これに、当日のテストの得点（500点満点）を1.4倍（700点満点に換算するために）したものを合計して合否を決定します。

5. 学校選びの基本

**進路は本人が納得して、自分で決めること
高校卒業後の進路まで見据えて検討すること**

もちろん、一番大切なことは上記の2つですが、そのために考えるべき事、集めるべき情報はたくさんあります。

<検討内容の例>

- (1) 校風、建学の精神、校則、制服の好み、学校の雰囲気
- (2) 自分の学力レベルに合っているか
- (3) 部活動など、やりたいことができるか
- (4) 通学時間
- (5) 学費・諸経費

これらのことを知るために、ホームページや資料で調べたり、在学している先輩やその学校の保護者の話を聞いたりすると良いでしょう。また学校説明会に出席することは必須です。

コース制や専門学科（工業科など）の学校では、一日体験入学があります。こういった機会を積極的に活用しましょう。ただし、予約が必要な場合が多いので、よく調べてみてください。

学力レベルについては、その高校に合格できるかどうかはもちろん重要ですが、合格して入学した後のことを考えることも非常に大切です。3年間の高校生活を見通して考えましょう。

通学時間は重要です。3年間通い切れるかどうか、特に冬季や満員電車をイメージしてください。部活動などに入りたい人は、朝練で早く登校しなければいけないなど、大きなポイントになります。

さらに、高校卒業後の進路も見据えて考えたいものです。大学進学ひとつとっても大学付属校が有利なのは言うまでもありませんが、私立高校の中には大手予備校と提携して自校内で無料で補習授業を実施し、「都立に行って、予備校通いをするより最終的には経費がかからない。」としている学校もあります。（ましてや、約46万円の就学支援金、助成金が導入されている現状では、考え方はいろいろでしょう。）また、都立、私立ともに指定校推薦の有無や就職の内定率なども見逃せません。

6. 奨学金制度について

- ① 奨学金には《給付型（返還しなくてもよい）》と《貸与・貸付型（返還する）》があります。わが国の奨学金の現状は、学資金として貸与（貸付）され、学校卒業後働き出してから返還する形のものが多いですが、様々な改革の動きを受け、給付型も少しずつですが、導入されつつあります。
- ② 複数の奨学金を併給（同時に受ける）可能なケースは、多くありません。（中学生の内に）予約奨学生の場合、ほとんどが夏休み明けの締め切りとなります。早めに担任まで相談してください。
- ③ 高校に入ってから応募するケースも多くあります。また私立高校などでは、学校独自の奨学金制度を持っている学校もあります。秋頃に開かれる高校説明会に積極的に参加し、確認しておきましょう。
- ④ 最も締め切りの近いもの（遅くとも、夏休み明け頃まで）として、公益法人東京都私学財団の東京都育英資金奨学金の予約募集があります。中学校を通して申し込みますので詳しくは各担任まで。

7. この間の変更点について

(1) スピーキングテスト (ESAT-J)結果の活用

来年度入試、つまり現3年生の受検から都立高校入試においてスピーキングテスト (ESAT-J)の結果が利用されます。

概略

スピーキングテスト	11月27日(日)実施 12月18日(予備日)
利用方法	スピーキングテストの結果を6段階(A~F)に評価し調査書に記入する。 A=20点、B=16点・・・F=0点を総合得点に加算する。

詳しくは、英語科からの説明をお聞きください。

(2) 男女別枠募集の緩和

従来から東京都では全日制普通科での入試において男女別に募集、選抜が行われていましたが、都はこれを順次緩和していく方向を打ち出しています。令和4年度は42校で9割を従来通りの男女別の総合成績で合格者を決定していましたが、残り1割については男女混合の総合成績で決定しました。令和5年度入試においてはこの比率が従来型8割、男女混合型2割に拡大される予定です。正式な発表は9月以降に行われます。

8. 保護者の皆様へ

受験期の子どもの最も多く見られる精神面での悩みは、「いらいら」であり「落ち着かない」ことです。こうした気持ちを解きほぐすには、子どもの悩み、不満を心から受けとめ、愛情をもって話を聞くことが解決の糸口となります。子どもの心の中にある不安や焦りを、大人として冷静に理解し受け止めていきましょう。

しかし、受験生だからといって甘やかすことは必要ありません。むしろ、受験は誰もが通る自立への道であると考えて、普段通りに接しながら、力強く励まし、明るく勇気づけていきましょう。

(1) 子どもとの話し合いを大切に（まずは子どもの意欲や意志を大切に）

親子が対立してしまうようでは、適切な進路選択・決定はできません。子どもの希望が現実離れしていたり、家族の期待に沿わないようでも、まずはよく話を聞き、常に進路のことを和やかに話し合える雰囲気を作っておきたいものです。

(2) 子どもの適性や興味・関心を考えて

子どもの興味、性格、学力、将来の希望、得意分野などを、「親のひいき目」でなく、客観的にとらえてあげましょう。実力以上の高校に入学できても、ついていけなくなるとは意味がありません。3年間通い、子どもの実力を最大限に伸ばせる進学先かどうかを考えて、アドバイスしながら意見交換をするようにして下さい。

(3) 親子で進路を学ぶ

「この子の好きなように」や「子どもにおまかせ」ではなく、子どもと共に進路について正しい知識や情報を収集していきましょう。学校の進路説明会や高校見学には保護者の方も積極的に参加し、その学校の様子を正しく認識しましょう。どの学校でも、保護者の見学を喜んで迎えてくれますし、その学校のそばで下校する生徒の様子をご覧になるだけでもきっと参考になることでしょう。

保護者は子どもの代わりに勉強することはできません。けれども、受験を通して自立しようとしている子どもと一緒に将来を考え、子どもの進路先について共に学ぶことはできます。最終的にはこうした「い

い意味での関心」が、子どもの気持ちを落ち着かせ、やる気を引き出します。

(4) 子どもの心理を十分に理解する

他人や、兄弟姉妹との比較は厳禁です。これは、子どもが勉強を通して、自分自身を何より大切に考えているからです。自尊心が最も強い時期です。不十分なところに目がいきがちだと思いますが、伸びているところにも目を向け、認める声かけを増やしてあげましょう。

(5) 環境作りを大切にす

保護者は子どもの代わりに勉強してあげることにはできません。受験生をもつ保護者ができることは、「環境作り」です。必要以上に気をつかう必要はありません。家庭の中に子どもが勉強しやすい雰囲気を作り、さびげなく作ってあげられるように心がけることで充分です。

また、自分でできるはずの身の回りのことを、すべて「勉強」のために代わってやることは、長い目で見れば逆効果です。なぜなら、そうしなければ合格できないような進路先に進んだ場合、卒業までそれを続けなければ、今度は卒業できないからです。

また、生活と学習はつながっています。生活がルーズな子が学習だけきちんとできるということはまずあり得ません。学習するには、まずきちんとした生活習慣の確立が大前提です。そのために、家庭内の生活リズムを規則正しいものにすることや、ルールを守らせることが大切です。

(6) 入試相談（個別相談）へ出かけましょう！

近年、東京都の私立高等学校が「埼玉県化」してきています。

埼玉県は私立校の受験出願に際し推薦や併願優遇といった制度の利用を、すべて受験生と保護者が私立高校へ直接出かけて行って交渉し決定します。つまり、中学校を一切通さないのです。

これは、埼玉県の中学生が東京都内の私立高等学校へ出願する際にも適用されるため、都内私立高校もこれに対応せざるを得なくなってきました。つまり、成績関係書類を持った埼玉県の生徒に対し、学校説明会や体験入学の際に行われる個別相談で、推薦や併願優遇の可否をその場で決定し通知するようになってきたということです。そうなれば、東京都の中学生に対しても同じ対応をせざるを得ません。

従って、東京都の中学生も成績を証明するもの(通知表や模擬試験の結果など)を持って私立高校の個別相談(学校説明会や体験入学の時に同時に開催されています)に参加し、できることなら推薦受験や併願優遇受験を内定(内々定)させてくる必要があります。(最終的には12月15日からの私立高校-中学校間の入試相談で中学校を通して確定させますが。)

まだすべての私立高等学校がこのような制度を実施していません。いまだに中学校を通してのみこれらの制度を利用できるシステムの高等学校もあります。しかしその際も、説明会や体験入学に参加していることが条件となることがほとんどです。

私立授業料の実質無料化で、私立高校受験はいろいろな意味で重要性を増してきています。併願優遇の利用も含め私立高校を進路先の一部にでも考えている場合は、積極的にこれら説明会や入試相談に参加しましょう。

また、大きな会場で催される私立高校の合同説明会も参加する価値が充分にあります。

※ 付記 私立高校進学時の助成金について。

現在、東京都の中学生が私立高校へ進学した場合、国から就学支援金、都から授業料軽減助成金が支給されます(所得要件あり)。最大で、46万9,000円となり、昨年度都内私立高等学校の平均授業料の47万4,897円とほぼ同額となります。

上級学校の種類

区分	高等学校			高等専門学校			専修学校			各種学校	
	3年			5年			1~3年			1年	
設置者	国立	都立	私立	国立	都立	私立	私立			都立	私立
	筑波大学付属など	大泉桜・井草・第四商業・練馬工業など	錦城・中央大学杉並など	東京工業高専(八王子)・木更津高専など	産業技術高等専門学校	サレジオ高専(町田)など	一般課程	専門課程	高等課程	職業能力開発センター(板橋・江戸川)など	サポート校・高卒認定試験予備校など
説明							社会人対象(高卒から)	高卒者対象	ビジネス・デザイン・服飾・調理など		
男子校	○		○						○		
女子校	○		○						○		
共学校	○	○	○	○	○	○			○	○	○
普通科	○	○	○								
専門学科	○	○	○	○	○	○			○	○	○
総合科		○									
単位制		○									
全寮制			○						○		
定時制		○	○						○		
通信制		○	○								△
高卒資格	○	○	○						○		△
大学受験資	○	○	○						○		△
*準学士				○	○	○					

専門学科(商業・工業・農業・家庭・芸術・保健体育などに関する学科)

普通科(理数・外国語などのコース制を含む)

※ 準学士は短大卒と

同資格で、専攻科を卒業すると大学と同じ学士となる。

※ 都立高校の種類については別冊「令和4年度 東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」を参照。

公立高校と私立高校の違い①

	私立	公立(国立・都立)
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 独自の校訓・教育方針を持ち、それを実践している。校風も実にバラエティ豊か。「文武両道」から「しとやか・上品」まで。 ◇ 男子校、女子校、共学校、とさまざまだが、最近では共学化の傾向が強い。ほぼ制服。 ◇ 宗教、情操教育に特色ある学校も多い。 ◇ 学校によって特色はあるが、一般的に生活指導は厳しい。「しつけ」ととらえて指導する学校もある。逆に、「自由」を校風とする学校も。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自主性尊重で、私立に比べると、規則は緩やかであり自主的に努力しないと自由な雰囲気にならざるを得ない可能性がある。近年頭髪服装などへの規制が強化される学校が増えてきている。 ◇ 共学のため中学校からはなじみやすい。 ◇ 国立では、男子校、女子校、共学校がある。 ◇ 制服がない学校は減りつつある。 ◇ 様々な特色のある学校が増えてきた。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 習熟度別授業の実施、補習の徹底など、各校独自の工夫が見られる。 ◇ 宿泊セミナーなども盛ん。 ◇ フランス語、ドイツ語などを第2外国語にしている学校もある。 ◇ 海外留学制度もあり。 ◇ 設備が充実し、コースが多様化している ◇ 大手予備校と連携し、学校内で予備校の授業を受けられるなど、「予備校に通う必要がない」ことを強調する学校も。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 基本的には生徒自身の努力に任されている。 ◇ 単位制高校:新宿、芦花、杉並総合等 ◇ いろいろなタイプの専門学科を設置 工業:工芸、杉並工業、中野工業等 商業:第一商業、第四商業等 農業:農芸(園芸科学、食品化学、緑地環境)等 体育:駒場、野津田 芸術:総合芸術(美術、舞台表現、音楽) 科学技術:科学技術・多摩科学技術 ◇ 専門学科の高校では、資格取得が必須なので、企業からの人気も高い。 ◇ 1、2年までは共通で、3年生から進路別の授業選択やクラス編成をする学校が多い。 ◇ チャレンジスクール:世田谷泉・稔ヶ丘など ◇ 昼夜間定時制:新宿山吹・荻窪など ◇ 国立高校は国立大学への優遇措置はない。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 公立ではできない、徹底した大学受験指導をするコースを設ける学校も多い。 ◇ 就職指導にも熱心である。 ◇ 大学附属の場合は、その大学への優先入学制度がある高校もある。 ◇ 学校によってはいくつかの大学・短大の推薦枠を持っていて、成績によってはこれが利用できる。指定校推薦という。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校によってはいくつかの大学・短大の推薦枠を持っていて、成績によってはこれが利用できる。指定校推薦という。 ◇ 基本的には生徒の努力に任されているが、最近では都立高校も進学指導に力を入れている。 ◇ 進学指導重点校 日比谷・戸山・西・国立など ◇ 進学指導特別推進校 小山台・駒場 など ◇ 進学指導推進校 竹早・武蔵野北・小金井北など
クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 優秀な外部コーチを招いて、素晴らしい実績をあげている学校も多いが、練習は厳しい。 ◇ 学校の特色とするために、スポーツ推薦などを取り入れている学校もある。設備は総じてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 基本的には生徒の自主的な運営。指導はその学校の先生や、OBが多い。 ◇ 国立高校では、系列大学とつながりのあるクラブもあるが、進学とは無関係。 ◇ 文化・スポーツ特別推薦の実施などクラブ関係に力を入れる学校もある。設備もなかなか充実してきた。
学費	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 入学初年度にかかる費用は東京都私立平均=約88万円。その他に寄付金や学債を徴収するところもある。100万円をこえる学校もあるが、最大約46万円が国と都から補助が出る。実質授業料分は無償化。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 入学金は5,650円。授業料は年約11万ほどですが、事実上無償化されています。ほかに教科書代やPTA会費など。(定時制は入学金2,100円。) ◇ 国立高校の入学金は56,400円、その他に15~25万円程度

私立高校等においても、実質授業料は無償(年収910万円以下世帯)。

公立高校と私立高校の違い②

	私立	都立	国立
入試制度	① 推薦入試(単願推薦、スポーツ推薦、自己推薦なども含む) ② 第一志望受験 ③ 併願優遇受験 ④ 一般受験 など学校ごと	① 推薦受検(一般的には定員の20%~30%、全普通科、全専門学科、全コース制、全単位制で実施。文化・スポーツ等特別推薦、一般推薦がある)	① 一般受験 ② 推薦制度 (東工大付・筑波大付属坂戸など)
推薦制度について	◇ 推薦制制度とは、生活面、学習面ともに優秀であり、その高等学校を志望する動機や目的がはっきりしている生徒を、校長が人物を保証して推薦する制度です。		
	<p><私立高校の推薦制度></p> <p>各校が示した下記のような出願資格を満たした人が受験できる。選考は、面接、作文が中心だが、最近、適性検査(学科試験)を行う学校も増えてきた。単願推薦は合格したら辞退できない。</p> <p>① 基本的な生活習慣が身に付いているなど人物がすぐれている者 (例 きちんとした服装をしている者、茶髪・ピアスはダメ)</p> <p>② 出席状況が良好な者(例 3年間の欠席数が〇〇日以内、遅刻数が〇〇回以内)</p> <p>③ その高校に進学したい理由が明確な者(例 その学校が第一希望校であること)</p> <p>④ 成績が良好であること(例 9教科の素点合計(各教科の評定の合計)が〇〇以上 *英検や漢検〇級以上取得で、素点に加点する学校もある)</p> <p><都立高校の推薦制度></p> <p>全日制の高校と高専に推薦入試の制度がある。選考は「調査書」「自己PRカード」「面接」「集団討論」等で行う。学校によっては作文や小論文、実技検査も行われる。合格した場合、ほかの学校は受験できなくなる。また、私立のように「内申〇〇以上」とか「欠席〇日以内」といった数的な基準は示されないが、一般的には下記のような推薦基準がある。</p> <p>① 当該学校を志望する目的意識が明確であり、その理由が適切である。</p> <p>② 当該学校・学科について適性・興味・関心を有する。</p> <p>③ 人物が優れている。</p> <p>④ 学習成績が良好。ただし、専門学科等の成績については特に優れていること。</p>		
一般受験について	・学校ごとに独自の問題で合否を判定する。 ・ほとんど、国・数・英の3教科入試である。	・都立高校の入試問題は一部(自作作成・グループ作成問題実施校)を除き、すべて同じであるが、合否基準は異なる。 ・ごく一部の例外を除いて国・社・数・理・英の5教科入試である。(数校が3教科入試)。 ・当日の得点と調査書の割合は7:3で見る学校が多い。	・学校ごとに独自の問題、基準で合否を判定する。 ・ほとんどが5教科入試。 ・東京芸術大学付属のように、実技を課すところもある。